

研究タイトル:

活断層の変動地形学的研究



氏名: 澤 祥 / SAWA Hiroshi E-mail: sawa@tsuruoka-nct.ac.jp

職名: 教授 学位: 教育学修士

所属学会・協会: 日本活断層学会, 日本地震学会, 日本地理学会, 東京地学協会

キーワード: 活断層, 変動地形学, 自然地理学, 地形学, 地震, 災害, 防災

- 技術相談
提供可能技術:
- ・ 活断層の認定
 - ・ 活断層の普及啓蒙講演
 - ・ 第四紀地形地質に関する技術相談

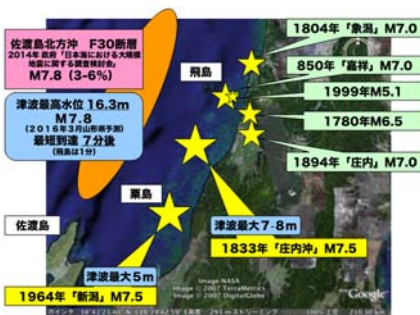
研究内容: 活断層の変動地形学的研究

1995年兵庫県南部地震: 阪神淡路大震災, 2011年東北地方太平洋沖地震: 東日本大震災, 2016年熊本地震を契機にして, 研究者以外の人々の間でも「活断層」の認知度が著しく増した。

活断層は直下型地震の震源となる断層である。東北地方太平洋沖地震の震源である日本海溝の巨大断層のようなメガスラスト Megathrust も広義の活断層に含まれる。活断層は, 大地震(M7 以上)をおこすと地下での運動「ずれ」を地表に出現させ, 地表に新たな段差を生む。このような断層や地殻変動と関連して形成された地形を, 変動地形という。大地震の痕跡・地表地震断層を過去にさかのぼって研究するのが活断層研究である。過去の大地震は地表地震断層やそれが累積した変動地形として地形に残っているため, 活断層の認定や活動履歴は地形地質調査をもとに行われる。

筆者は1970年代後半以降一貫して活断層の変動地形学的研究を行ってきた。主たる調査地域は, 日本最大級の活断層である糸魚川静岡構造線と, 東北地方一円の逆断層活断層である。都市圏活断層図(国土交通省発行)の作成調査委員として, 同委員会発足当初から筆者は活断層の認定に現在まで携わり, その成果は政府の防災対策の基礎資料として活用されてきた。

活断層の認定以外にも, これらの研究をもとにした活断層・地震・津波・地震防災に関する普及啓蒙活動を地元密着で数多く(年間十数回以上)行ってきた。



庄内の地震環境



2016年熊本地震の建物被害 (益城町・2016年9月 澤撮影)



2016年熊本地震の地表地震断層 畦畔が約1m右横ずれ (益城町・2016年9月 澤撮影)

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	